

は“やまと絵”という日本の風物を題材にした柔らかく日本人の心情に合わせたものや山水画中心だったこと、鎌倉時代には西本願寺の襖絵のように山水画、特に山岳と水の流れの組み合わせから、室内にいながら自然と一体になる感覚が好まれていたこと、室町時代では狩野派が足利將軍の御用絵師となり、気骨のある水墨画、豪壮な漢画、柔和なやまと絵を融合させた新しい表現の襖絵が飾られたこと、安土桃山時代には寺から城に襖絵が広まり、黄金と濃い色彩の金碧障屏画などの絢爛豪華な襖絵が生まれ、表座敷に飾られたこと、しかしながら一方で奥座敷には水墨画が飾られることが多かったこと、江戸時代前期からは名古屋城の襖絵のように繊細で淡泊な幾何学的構図が見られ、日本人の美意識に変化が生じたと考えられること、というような具合です。調査分担も狩野派、長谷川派、琳派それぞれを調べた生徒、絹や和紙(楮、雁皮、三また)など基底材の調湿性や顔料との相性、和墨の油煙墨、松煙墨、彩墨、白色材として牡蠣の貝殻からつくった胡粉、黄土、朱土、箔を調べた生徒、岩絵の具の辰砂、孔雀石、藍銅鉾、ラピスラズリと定着剤の膠について調べた生徒、和襖の製造過程を調べた生徒、というように実に細かく分担し深く調べてあります。参考文献も日本画関係、色彩学・色彩論関係、近世日本絵画関係、古美術関係、襖関係、鉾物学関係と多岐にわたり、東京芸大発行の専門書にもあたっていました。事前調査の途中で、本校の美術科主任で日本画の画家である水見先生から、顔料の特別講義を受けました。現地での訪問先は中川胡粉製造株式会社という日本画の画材や胡粉の製造販売の有名な会社にアポイントを得ており、現代の日本画と歴史的な襖絵をじっくり考察する予定です。班員たちは、これら事前知識を蓄えたうえで、実際に寺社に飾られた襖絵を見てどのような感じを受けるのか、それを楽しみにしています。

もうひとつ、この班について補足しておきたいのは、8人の班員のうち4人が帰国生です。イギリスのケンブリッジの現地校から編入したA君、フロリダからの帰国生Bさん、スイスのインターナショナルスクールからの編入生Cさん、この9月にヒューストンから編入したばかりのDさんです。海外校の生活が長くても、これだけ日本文化を深く調べられる力をもった生徒たちです。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稲荷前 1-1

TEL: 029-851-6611(代) FAX: 029-851-5455

HP: www.meikei.ac.jp E-mail: entry@meikei.ac.jp



座禅会の事前研修(坐蒲にご注意を!)

座禅会の事前研修

さて、短期入寮4日めは、12月の国内研修の最後のクライマックス、延暦寺での参禅に向けての事前研修です。放課後、筑波大学名誉教授の大藪正哉先生の講演「日本人と仏教」を聞いて、仏教が修行僧のものだったインド、寺で触れるものだった中国に対し、日本では日常に仏教が入り込み、「極楽」も修行を積んだ人ではなく誰もが行けるものと変化してきたことを学びました。その夜は、柔道場での座禅会。坐蒲を使って実際に座禅の体験をします。指導する禅師は、卒業生で永平寺で修行を積んだ曹洞宗の僧侶、米澤師。座禅とは苦しみのためにやるのではなく、本来は心が落ち着いてすっきりするためのもの。苦しいと思うのは慣れていないからであり、座禅の心が身に付けば、緊張する場面の前でも気持ちのうえで座禅の心になれば力を出し切ることができる、という話を聞き、その後合計1時間の座禅を組みました。全員1回ずつ警策を受けますが、希望して5回受けた生徒もいました。

短期入寮5日めは、霞ヶ浦に理科巡検!何と盛りだくさんな内容でしょう。もう書ききれないので今回はこれくらいにします。Skills 満載の中学3年生の行事のひとつ、点描しました。

Meikei Method - STUDY SKILLS 新版完成!

このコラム「茗溪学園の Study Skills 教育」の掲載内容全てをまとめた冊子の新版が完成しました。無料でお送りしますので、ご希望の方は、下記までどうぞ。

kouhou@meikei.ac.jp または info@infoe.com



Study Skills は、数多くの小さなスキルが成り立っています。そのスキルの一つひとつを、生徒に身につけさせる仕掛け・工夫が、茗溪の伝統となっている学校行事には「満載」されています。それが、「茗溪メソッド」と呼ばれるのです。

知識中心の勉強と、このスキルの組み合わせが「本当の学力」と呼ばれ、生徒一人ひとりの真の「生きる力」となるのです。田代先生、そうでしょ!